



8/10の1,2年生の学力コンクール。本当の力が分かります。



8/24数学検定、小5から高3まで10名が受検しました。



学力コンクールの結果について一人一人と面談です。



夏期講座終了後、大学受験勉強中の粟野君が掃除を。



8/4 港祭りの音楽パレードで。ミスマーメイドの16期生の松田野々花さんとバトンの田村さん、吹奏楽の小森さん。



8/14～16日 鶴居でキャンプ。6期生の中島夫妻と18期生の高橋舞さんも参加してくれました。天気は最悪でした。



「9月入試まで180日！」
4月からあつという間に5ヶ月が経ち、もう9月で、入試まで残り180日余りになりました。9月は、定期テストそして中3生はいよいよ学力A・B・CのAテスト(12日)です。志望校も決まっているはずですからしっかり取り組むことです。
A・B・Cの結果がすべてではありません。12月の三者面談で志望校を決められることはないのです。本日の受験勉強は12月から2月の3ヶ月間です。一回ごとのテストで喜んだり、落ち込んだりは意味がありません。その都度、弱点を確認し、それを克服する取り組みが日々の学習です。学校祭もあります、宿題も増えます。気温の変化で体調を崩さないように気をつけることも必要です。いつも言っているように日頃の努力がテストの結果です。



カブトムシ担当になった粟野君とカブトムシ用のゼリーを食べてみた高校生と中学生の女子。女子の方が勇気がありました。



14期生の江口恵さんとお母さんが苦小牧から。



札幌で放射線技師の勉強をしている住川さん。大変そう！

「学力テスト 少人数指導で向上図れ」
これまでの結果を生かすためには、よりきめ細かな少人数数学級の指導がやはり必要だ。
今年度の全国学力・学習状況調査(学力テスト)は4年ぶりに全員参加方式で行われた。実施費は約55億円という。
「基礎知識の問題はできるが、応用が苦手」。2007年度に開始以来、毎回こうした総括が繰り返される。正答率の高低を物差しにした都道府県別順位に関心は傾きがちで、今後これをどう学力向上に生かすかの論議は十分に盛り上がりがない。
熱心に取り組む学校や先生たちの努力は成果を上げるだろう。だが、学力、理解度、問題の得手不得手など全体傾向をつかむテストは、一部の抽出調査で足るとされ、民主党の前政権は抽出方式を採った。



高専から日立製作所、システムエンジニアの石田君(右)



18期生の5人、新田、大坪、渡邊、中村、青柳君と一緒に。



19期生で鎌倉女子大の武利さん(右)と湖陵後輩の阿部さん。



17期生で高専から日立メディアコへ就職した富樫君。

また、毎回同様の傾向を確認するためのような連続調査が必要か。一定年の間隔で抽出調査すること的確な把握は可能だろう。
文部科学省は今後も毎年全員参加方式を続けたいという。その意義を一人一人の子供たちの指導資料になることというが、小中学校それぞれ最終学年の子供たちは、その学校で残された指導時間は短い。これも初めから指摘されてきた点だ。
また全員参加方式の場合、一部で学校別正答率公開の動きがあり、昭和の学力テストで起きた序列化をめぐる過度の競争も生じかねない。
自治体レベルで行われている学力テストも多い。先生には日常の授業と指導の積み重ねがある。国が行っているこの学力テストの結果で初めて先生が知る子供たちの理解度、得手不得手などはないだろう。毎回気になるのは「無解答」という反応だ。国際テストでも日本の子供に目立つといわれる。今回、テストに付随して行う調査で初めて「無解答」の理由を尋ねた。
その中で「問題文の意味がわからなかった」とする子供が多いことに注目したい。設問の難易以前に学習の基本である「読解力」をどうつけるかが課題となる。また中学の国語では、答えを文章で書く問題だったので無解答というのもあった。
文科省は義務教育段階(小中学校)の全学年を40人学級から35人学級にしたいとしているが、財務省は難色を示し、実現は小学1、2年生にとどまっている。
文科省は学力テスト結果の詳細な分析で少人数数学級の効果を実証したい考えだが、既に「応用苦手」の傾向や読解力の問題などにその必要性は示されているといっている。
行き届く目と細やかな指導。それは学力テストだけではなく、相次いだ「いじめ問題」にも浮き彫りになった緊急の重要課題だ。

毎日新聞社説 8月28日より
55億円もの巨額の費用をかけてテストを行う意味はゼロに近い。そこから読み取れるデータは毎回同じだ。何をやらなければならぬかは明白で、特に年々落ちていくように感じられる読解力の対策は必須だ。英語教育の前に、国語教育というより日本語教育の方が大事だ。インターネットで調べ物をさせたり、タブレットの使用など論外だ。

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日
		休塾			●美原定期テスト			秋分の日 休塾	休塾		●景雲定期テスト		●遠矢・富原定期テスト		敬老の日 休塾	休塾		●3年生 学力A					休塾	●1000分特講						休塾

9月の予定

■1000分特講■
2学期最初の定期テストが9月に実施される中学校が3校あります。富原・遠矢・景雲です。この3校の定期テスト対策「1000分特講」を実施します。
該当する生徒にはすでに案内を配布してあります。有料のテスト対策なので希望者のみの参加となります。
日頃の授業内容ではできない、テスト範囲の集中特訓講座です。各学校、学年のテスト範囲のテキストを作成します。
9月7日(土)は午後1時～8時、8日(日)は午前9時～午後6時です。7日は軽食、8日は昼食が必要です。参加希望者は9月5日(木)までに申し込んで下さい。

携帯電話の持ち込み禁止。連絡は塾の電話を使用して下さい。

『天声人語 2013.08.03 から』

面と向かって話しているのにケータイやスマホの画面から目を離さない人がいる。怒るより気の毒な感じがする。そこまで電腦情報に接していなければ気がすまないのかといぶかしく思う▼大人でもそうだから、いわんや生まれた時からIT機器に囲まれて育った世代においてをや。ネット依存の疑いが強い中高生が全国で51万8千人いる。厚労省の研究班が調査をもとに推計した数だ▼ネットを使う時間を短くしようとすると、落ち込んだりイライラしたりする。絶望や不安から逃げるためにネットを使う。熱中しすぎなことを隠すために、家族にうそをついたことがある。そんな傾向の強い生徒たちだ。全体の8%にあたる▼スマホの普及も拍車をかけているのかも知れない。検索、動画、音楽など実に多機能だ。リクルート進学総研の最近の調べでは、高校生の55%が持つ。2年前の3.7倍。起きてから寝るまで一日中、肌身離さず触っている姿が浮かび上がる▼人間の欲望はきりが無い。もっともっと、の音が頭の中で響く。よりたくさんの情報を、よりたくさんの人とのつながりを。それに応える手段が次々と登場し、人間はついて行くので精いっぱいになる▼ネットは便利だし、楽しいが、度がすぎて心が荒(すさ)んだり、家に引きこもったりとなっては本末転倒だ。〈物を玩(もてあそ)べば志を喪(うしな)う〉。無用のものに心を奪われ、本来の目的を見失うことをいう。時にはネットを離れ、つながらない時間を持ちたい。物は使いたいようである。

1961年10月に『上を向いて歩こう』というレコードが発売され爆発的なヒットとなった。この曲は永六輔さんが60年安保闘争に敗北して帰途に就いた時の心情を書いた歌で、米国の週刊音楽業界誌ビルボード誌では、1963年6月に、週間1位を獲得。同誌の1963年度年間ランキングでは第10位にランクインされ、世界約70ヶ国で発売されるなど世界的にヒットした曲だ。この時代、日本にも、そして日本の若者にもエネルギーがあった。当時は、みんなが前向きで、上を向いていた。

しかし今は中高生をはじめ若者も、大人もみんな下を向いている。携帯やスマートフォンを見ているからだ。いつでも、どこでもだ。

携帯やスマホを常に身につけ「Line」や「フェイスブック」、「ツイッター」などに気をとられ、時間をとられている。勉強も仕事にも集中できるはずがない。

天声人語にもあるように面と向かって話しているのにケータイやスマホの画面から目を離さない人がいる。文字のやりとりではコミュニケーションは成立しない。いじめもまでもネットを使って行う。ネットの世界を安易に信用し、トラブルや事件に巻き込まれる危険性が高い。16歳が殺人事件まで起こしてしまった。

便利さが言われるが、ネットの世界はプライバシーも人権も保障されないし、怪しい情報があふれている。安易に利用し信用するのはとても危険だ。

7月、札幌のホテルでの朝食のとき隣に座った30代か40代の男が携帯とスマホを持ってきて、食事が終わるまで左手に携帯を持ち画面を見続けていた。驚いた、というよりあきれた！

みんなが下向きで、自己中心的では社会が良くなるはずがない。国民の大半がネット依存症で国が発展するはずがない。少なくとも前を向いていなければ！

便利さの代わりに失ったものはとても大きい。

余談になるが、『上を向いて歩こう』は、1985年(昭和60年)8月12日に群馬県多野郡上野村の高天原山の尾根(御巢鷹の尾根)に墜落した日本航空123便、東京発大阪行のボーイング747に乗っていた歌手坂本九が歌った。この事故の犠牲となり44歳で亡くなった。

この事故を題材にした映画、横山秀夫原作の『クライマーズ・ハイ』とWOW WOWドラマ『尾根のかなたに～父と息子の日航機墜落事故』はどちらもDVDが出ているのでぜひ見てほしいです。

北海道新聞「読者の声」 小中学生の意見

①「英語よりまず日本語を」

大学受験での英語能力試験「TOEFL」の活用や小学英語の教科化…。盛りだくさんの英語拡充策が各方面から提言されていますが、私はこのような流れに反対です。

確かに世の中では国際化が進んでいます。日本にもたくさんの外国人が来ます。最低限のマナーとして英語は身につける必要があるかもしれません。

しかし、英語の言葉の意味を理解するには日本語が必要です。今の日本社会では「若い世代は正しい日本語が使えていない」という見方が一般的なのではないでしょうか。

私もそのうちの1人かもしれません。きれいな日本語を話さなければきれいな英語は話せません。

英語学習に力を入れるよりも、日ごろから正しい日本語の使い方を身につけて社会で役立つさせることが必要だと思います。(空知管内の高3生)

②「自由と義務、ともに必要」

中学生には自由がありません。小学生のころ、遊ぶ時間は山ほどあった。しかし、中学生になると、自由が小学生のときの半分になった感じがする。

自分が自由になりたかったら、まず自分の義務を果たさなければならない。中学生にもその義務がある。例えば、学校へ行くこと、勉強すること、部活動をする。これらの義務をしっかり果たせば、絶対に自由になれる。でも、また新しい義務が待っている。

その先にも、大人になって果たさなければならないことがこれからずーと待っているかもしれない。

だから、自由と義務は絶対に二つがセットでないとダメだと思う。どっちか片方しかなかったら、私は変になってしまうだろう。自由と義務は両立することが良いと思う。(標茶町の中2生)

③「人に夢与える漫画家に」

私の夢は漫画家になることだ。幼いころからあこがれ、興味を持っているこの職業は、今でもずっと私の心をわしづかみしている。

絵を描くのが好きだ。白紙を見ていると、想像が膨らんで頭がいっぱいになる。

絵に刺激され、自然とその情景が思い浮かび、ますます創作意欲がわくこともある。

そんな感覚が好きで、どんどんおぼれていったら、たどり着いたのが、漫画家という職業だった。

漫画家というのはインクと紙の集合体だというのが、だからこそ出来ることがたくさんある。

人間ではなしえないこと、普通なら起こりえないこと、自分の夢、理想…それらを髪の中で実現させ、人に夢を与えるのがこの漫画家である。素晴らしい職業だと思う。私も人に夢を与えられる、そんな漫画家になりたいと思う。

(白糠町の中3生)

北海道新聞の読者の声の「みらい君広場」という、小中高生の投稿を紹介している欄より

『九分九厘』という言葉

「九分九厘間違いなし」と言えば、ほぼ間違いなしという意味です。でも、この九分九厘を百分率に直すとたった9.9%です。9.9%で成功間違いなしなんてことはありえないので、なぜだろう？と思っていたところに、その謎を解いてくれる本(算数の問題集)に偶然めぐり合いました。

この言葉はそもそも江戸時代から使われるようになったらしく、そのころは「割」が無くて「分」から始まっていたのだそうです。このあたりの経緯は、江戸時代初期の数学者吉田光由の著作「塵劫記」(じんこうき)に詳しいのですが、この「塵劫記」なる本、江戸時代の数学の発展にとっても大きく寄与しています。江戸時代の後の数学(和算)の大家、関孝和や貝原益軒もこの本の愛用者でした。(関孝和や貝原益軒は昔は中学の歴史でも学習しましたが、今では高校の日本史でなければ出てきません。)

江戸時代は庶民の教養と娯楽をかねて数学が大ブームになり、問題をお互いに出し合って神社の絵馬に記入して奉納するなどしていたそうです(現存しています)。

そういう数学の流れはずっと続き、明治維新の目覚ましい進歩にもかなり貢献したといわれています。科学や数学はヨーロッパから入ってきたといわれていますが、実はそうでもなかったということですね。日本人はやはり、昔からすごい。

育英塾日より9月号よりから

『五分五分』も同じです。5%、5%では半分にはなりませんが、意味は5対5です。